

埼玉育ちのグローバル人

書道とユーゴスラヴィアを愛した留学
～大国と小国それぞれで感じた“違い”とは?～

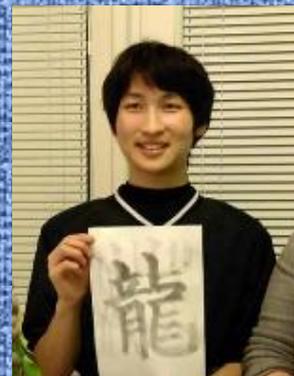
第3回 「イギリスで学ぶ国際関係学

～スロベニアとイギリスの留学を振り返って～

平成30年度「埼玉発世界行き」奨学生 柳沢 甫



埼玉県マスコット「コバトン」



～イギリス留学のきっかけ～

スロベニアで留学しているときから、つくづく思うことがありました。前々回に記載しましたが、たくさんの旅行や学びを経験していくうちに、自分が学びたいことが明確になってきました。その一つが国際関係学でした。国際関係学の中の紛争処理と国際機構に興味を持ちました。

そこで今年の1月くらいから、自分に合うコースはないかと探しました。その結果が、ロンドン大学アジアアフリカ学院(SOAS, University of London)が開講している夏休みの集中講義でした。

～SOASでの留学～

7月後半から9月中旬までの2か月間ほどロンドン大学で学びました。生徒の割合としてやはりアジア系、特に韓国人・中国人・日本人が多かった印象です。しかし、日本人の間でも英語で会話するなど、日本人内でのモチベーションもみな高かったです。

授業は10時から15時までの2部構成でした。主に、リーディングやディスカッション、グループワークで、各ブロックの終わりにグループプレゼンテーションが課されていました。

日本では、異文化コミュニケーション学部に所属しているため、個人的には国際関係学には興味があったものの、本格的に学習するのは初めてでした。

海外で授業を受けることには慣れていたのですが、毎度のリーディング教材やディスカッション

トピックはとて難しい内容ばかりでした。ここでいう「難しい内容」というのは、日本人にとってはデリケートとされている内容のことです。私のクラスは、日本人と中国人のクラスでしたが、真っ向から日中の歴史問題や、過去の大戦についてどう思って、解釈されているのか、といった日本では避けていたトピックについてたくさん提示されました。ここでは、一切の偏見は許されません。したがって、日々国際関係理論を学びつつも、そのような日中関係をはじめとした世界での各国間の緊張や行動について自主学習をしました。初めは、ユーゴスラヴィアの紛争から国際関係学という順序で学びたかったのが本音でした。しかし、各国間の緊張関係や実情、またそれに至る原因などを国際関係理論などに当てはめて考えてみると、その考えを応用できることが分かりました。広い視野で見るほうが、ミクロな立場で見る時にさまざまな考えに応用できることが分かりました。

2ブロック目では、クラスが変わり、マレーシア・トルコ・インドネシア・中国・韓国・日本からの留学生で構成されたクラスになりました。このクラスでは、環境問題や貧困問題についてのトピックが多かったですが、様々な国からの留学生が多かったため、意見の内容にも深みがあったように思いました。段々と今までに学んだ経験や学習を様々な場面で生かすことができました。そこで、成長を感じるとともに、イギリスに留学して「自分のやっていることは間違いではなかった」と思いました。このプラスな思いは、留学生生活

をおくる際にとっても重要なことだとも改めて感じました。



ブロック1のメンバー写真

～イギリスでの生活～

ここで、少しイギリスでの生活についても触れたいと思います。スロベニアとは違い、ロンドンでの学生寮は一人部屋でした。そして、キッチンが共有でした。不便に感じたことはありませんでしたが、物価が高かったので毎晩自炊しながら生活していました。週に1・2回は韓国人や中国人の人たちとディナーに行き、またクラスメンバーでランチや夕飯を食べに行ったりしました。

日々の宿題が多いため、基本平日は夜の8時までSOASの図書館で勉強していました。週末も基本勉強していましたが、土曜日はロンドンバスであてもない旅をしていました。鉄道よりもバスのほうが格段に安いので、適当にバスに乗り景色を見ながら終点地に行くというただそれだけです。ロンドンのバスは複雑で覚えにくいと有名でしたが、旅のおかげで、マスターすることができました。その旅をしながら、ロンドンの中心やその郊外に行くことで、生活の様子や人々の暮らしなどの違いにも気付けるなど、自分にとってはかなり有益な旅であったなと振り返ることができます。

～最後に～

スロベニアとイギリスでの留学が終わり、早2か月が経とうとしています。両国に留学して様々なことに挑戦し、たくさんの失敗や経験をし、多くの人に助けられました。このように振り返るこ

とができるのは、一つに自分自身の好奇心と努力があるからだと思います。異国の地に身を置くのは、とても勇気がいることであるのと同時に、憔悴することもたくさんあります。また孤独との勝負にもなります。しかし、たくさんの人と話しながら交流し、話し合い、そして笑いあいながら友情を深めると、彼らは絶対に助けの一手を差し伸べてくれます。私もそうでした。そして、たくさんの国やモノ・人に出会うことで、自分の価値観は変わることもあると思います。

今日は、グローバル化の時代ですが、単なる「グローバル人材」となるのではなく、様々な経験や交流を持った型にはまらない「グローバル人材」になるために、これから飛びたつすべての留学生へエールを送りたいです。3か月間、拙文ながらご愛読いただきありがとうございました。



日中韓の学生との夕食会の写真